

富士宮市平成29年度地域福祉実践セミナー開催

富士宮市社会福祉協議会主催の地域セミナーは平成30年3月11日13時から15時30分富士宮市総合福祉会館安藤記念ホールで地区社協関係者市民300人が参加して開催された。

まず参加者全員の3.11東日本震災犠牲者の黙とうを行って開会した。セミナーは高齢者、障害者を支援し協働して地域で安心して過ごせるよう毎年開いている。

今回は、1、2部に分かれて第1部では富士宮中央クリニック淵本晃司医師の基調講演「地域におけるかかりつけ医としての役割」と題しての講演があり、その中で高齢、障害、病を患っても自分の家で過ごせることが大事であると語り、第2部のシンポジウムではパネラーとして淵本医師、富士根北地区社協の大河原忠会長、富士宮市介護保険事業者連絡協の渡邊和敏の3名、コーディネーターを富士宮社協の小野田正樹係長が務めた。

大河原さんは地区社協の特有の課題である高齢者見守りについて語り、渡邊さんは脳が体に追いつかない介護の現状について説明した。

そして、地域でのつながりが、希薄になることを防ぐには住民各々が孤立しない取り組みが大切であることを学びあった。

地域包括ケアシステムの構築について、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に医療介護生活支援を一体的に実現することである。富士宮市では30年度地域支援センターの拡大を計画している。



[129年度実践セミナー](#)



[229年度実践センター](#)



[429年度実践セミナー](#)



[29年度実践セミナー3](#)

富士・富士宮地区担当生きがい特派員 原義廣